

しゅうし じょうどしんしゅう

私たちの宗旨は、浄土真宗です

【本尊】
ほんぞん

南無阿弥陀仏（本願の名号）
なむあみだぶつ ほんがん みょうごう

阿弥陀如来像（方便法身尊形）
あみだにょらいぞう ほうべんぼっしんそんぎやう

【正依の經典】
しやうえ きやうてん

『仏説無量寿経』（大經）
ぶつせつむりやうじゆきやう だいぎやう

『仏説観無量寿経』（觀經）
ぶつせつかんむりやうじゆきやう かんぎやう

『仏説阿弥陀経』（小經）
ぶつせつあみだきやう しやうきやう

【宗祖】
しゅうそ

親鸞聖人（愚禿釈の親鸞）
しんらんしやうにん ぐとくしゃく

【宗祖の名著】
しゅうそ しゆちよ

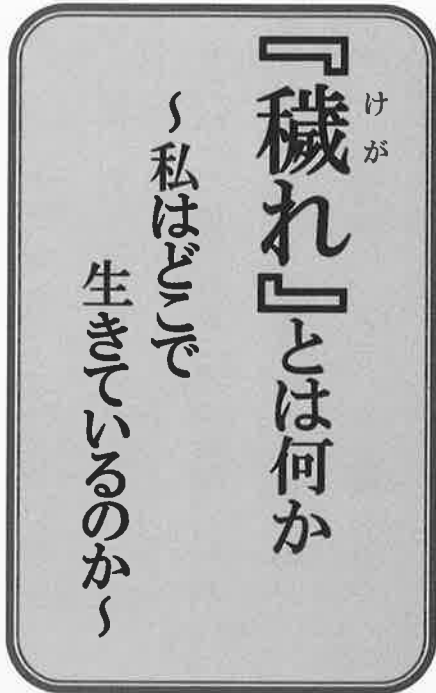
顕浄土真実教行証文類（教行信証）
けんじやうどしんじつぎやうしやうもんるい きやうぎやうしんしやう

【宗派名】
しゅうはめい

真宗大谷派
しんしゅうおおたには

【本山】
ほんざん

真宗本願寺（東本願寺）
しんしゅうほんびやう ひがしほんがんじ



【穢れ・汚れ】
けが けが

きたないこと。よ〜れ。

不潔。不浄。

『広辞苑』より

高田教区教化テーマ
『私はどこで生きているのか』
〜たずねよう真宗の教えに〜

企画：高田教区靖国問題研究班
発行：真宗大谷派高田教区教化委員会
〒943-0892 上越市寺町 2-24-4
☎025-524-3913 Fax025-524-2645
URL <http://www.takada-kyoku.jp>
E-mail takada@higashihonganji.or.jp
2018年6月発行

あなたは、生活の中で「汚い」と感じる時の「理由」は何ですか。多くの場合、「見た目」ではないでしょうか。しかし、本能的に汚いと感じるものは、「見た目」だけではなく、私たちの心の奥底に潜んでいる感覚や感情が、大きな理由となっているのではないのでしょうか。

私たちが感じる「穢れ・汚れ」とは何か。真宗門徒の立場から、「穢れ」の本質を考えてみましょう。

「穢れ」を問うには

「私たち自身」を

問わなければならぬ

◆「よこれ」は見えるもの

◆「穢れ」は見えないもの

セクハラや痴漢被害に遭った時、「ケガラワシイ」という言葉を使うことがありますが。この言葉は、どういう意味を持っているのでしょうか。

見知らぬ人や嫌いな人に触られた時、そこには目に見える「ケガレ（よこれ）」はないのに「ケガラワシイ」と感じる。友人や好意を持つ人に触られた時は感じない「何か」を感じる。その「何か」が「穢れ」です。つまり、個人的な嫌悪感や憎悪などによる強烈な不快感です。「ケガラワシイ」は「穢らわしい」と表現できるのではないのでしょうか。

そして、この観念や感覚は、女性に限らず男性も含めて私たち人間みんなが持っているものではないのでしょうか。

古くから、「死穢」「産穢」「血穢」というものがあります。

◎死穢 人間を含めた動物の「死」を穢れたものと見ること

◎産穢 出産により穢れた人と見ること

◎血穢 生理などにより穢れた人と見ること

これらの穢れの観念が、様々な要因により形を変えて、社会的に表面化して

差別や偏見となつてしまいます。

差別や偏見を生み出している要因は、その時代の社会状況にあります。そのおおもとは、自分自身では気が付かないでいる、「私たち自身」にあるのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、仏の教えにより「無碍の一道」を歩まれました。

◎無碍の一道

煩惱に迷い、もがき苦しむ私たちの心を解き放つ、何者にもさまたげられない道

私たちが「無碍の一道」に立ったならば、穢れの観念はおのずと変わってくるはず。そのためには仏の教えを聞き、私たち自身を問い続けなければならないのです。